

先進地紹介

北陸新幹線開業とその先を見据えた福井駅周辺のまちづくり

水戸市都市計画部都市計画課 主幹 矢吹友鏡

■はじめに

令和6年10月18日、公益財団法人都市計画協議会が主催するまちづくりセミナーに参加させていただきました。セミナーで学んだ福井市のまちづくりをご紹介します。

■福井市の概要

福井市は、福井県の北部にある福井平野に位置し、市域面積は536.41km²となっています。平成31年4月に中核市に移行し、令和6年9月1日現在で福井県の人口の1/3にあたる約25.5万人が居住しています。

■福井市のまちづくり

①福井駅周辺のまちづくり

福井駅周辺は、北陸新幹線の開業にあわせて都市基盤の再整備が積極的に進められており、駅前広場の拡充や道路の新設・拡幅、交流拠点（再開発ビル）等の整備・活用が行われています。



西口



東口

・西口再開発ビル「Happiring（ハピリン）」

福井市の曇天率が高いこともあり、1階に整備された屋根付き広場「ハピテラス」は、イベントなどに多く活用されています。

・福井市観光交流センター

福井駅に併設されており、観光案内所やカフェ・休憩スペース、屋上広場等が整備されています。

・恐竜コンテンツ

福井駅の西口に福井県が、東口に福井市が恐竜に関する様々なコンテンツを整備しています。また、民間においてもお土産やホテルの内装に恐竜をデザインするなど、恐竜というインパクトのあるコンテンツで福井市を印象付けるプロモーションとなっています。



・福井版ほこみち制度（ふくみち）

福井駅周辺における歩行者利便増進道路。木製遊具や図書スペースなどの設置による滞在空間づくりが行われていました。



②民間活力を生かした県都リノベーション

民間主体によるまちづくりも行われています。

・県都にぎわい創生協議会の発足

北陸新幹線福井駅開業がまちづくりのラストチャンスだとして、福井商工会議所の働きかけにより福井県と福井市が参画し、県都にぎわい創生協議会が発足しました。経済界と行政が一体となって、県都のまちづくりを協議し、北陸新幹線開業までのアクションプランの作成・推進や大阪延伸を見据えたランドデザインの策定・プロジェクトの推進をしています。

・県都ランドデザインの策定

2040年を目標年次と定め、福井のまちなかの将来像やその将来像を実現するための基本方針と戦略、行動計画などをまとめています。

■おわりに

福井市では、北陸新幹線開業を契機とした都市基盤整備を行うだけでなく、県や商工会議所、民間事業者が一体となりまちづくりを行っており、ランドデザインの策定など連携した取り組みは学ぶことが多く、大変参考となる有意義な研修となりました。